

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	主体的なアウトプットを引き出す自己モニターの活用				
研究組織	代表者	所属・職名	言語コミュニケーション研究センター・特任講師	氏名	田中 裕実
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	言語コミュニケーション研究センター・特任講師	氏名	田中 裕実

講演題目
主体的アウトプットを引き出す自己モニターの活用に関する予備的研究
研究の目的、成果及び今後の展望
<p>研究目的</p> <p>本研究では、大学生英語学習者を対象とし、英語プレゼンテーションの演習に関する意識調査を行い、学習者に還元しうる授業環境や活用の可能性を模索した。学習者が当該演習をどのように捉えているのかを知り、当該学習活動の流れや指導方法の可能性を探るとともに、学習者の活動記録やリフレクションを含めた自由記述記録を用いて、学習者の活動の特徴や傾向などを観察し分析した。</p> <p>成果</p> <p>筆者が担当する一般教養科目を履修する英語学習者 3 クラス 80 名を対象として英語プレゼンテーション演習に対する 5 件法を用いた意識調査を行った（項目および数値等割愛）。項目の最高値は、対象学習者が英語のスピーチやプレゼンテーションについて、これまでの授業で教えられたことを自ら理解することができているとみなしていることだった。しかし最低値は、自ら行う英語のスピーチやプレゼンテーションはすぐれていると思う、ということについてだった。項目全体から、授業者が目標を絞って提示し指導を加えると、学習者はその取り組みをある程度適切に行うことが出来、その件の達成度が増すということや、学習内容についての習得の意志が高いということもわかった。これを受け、当該授業では、活動内容の説明に加え、活動目標の細目提示を行い、ワークシートを用いた活動補てんを加えた。その他グループ内での練習とピアフィードバック、練習動画撮影・録画視聴とピアフィードバック、反復演習、最終発表録画、活動についての振り返りなどを含め、その後学習者の個人記録を回収した。（個人の e ポートフォリオの作成や提出は当該活動時間外で依頼した。）</p> <p>対象学習者（全行程を終了した被験者分を抽出、複数回答受領、数値等割愛）の活動観察・記録を見ると、目標のプレゼンテーション導入、説明、パワーポイントのスライド提示・使用量などについて、達成度の数値が高かった。一方、発表者としての質疑応答や、聴衆役としての質問については達成度にばらつきが見られた。一部を学習者に任意として課したことが影響した可能性があり、目標の細目提示を行うだけでなく、授業者による継続的指導や支援が必要であることが考えられる。</p> <p>今後の展望</p> <p>当該活動で得た学習者特徴や、活動に即し目標細目を提示することは、今後の当該授業実践において授業者の指導や支援の一助となる可能性がある。今後はインタラクティブな活動をさらに充実させるためにどのような授業者支援が必要なのかについて考察し、授業をデザインし、学習者動向の観察および分析を行い、その結果を大学英語教育に還元することを目指したい。</p>